



毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた
「日本伝道の推進を祈る日」です

共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを
2教区（東京は支区）ずつ紹介します。
全国の教区・教会・伝道所を覚えて
祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

日本基督教団伝道推進 基本方針

- 祈祷運動 共に祈ろう
- 信徒運動 共に伝えよう
- 献金運動 共に届けよう

「日本基督教団全国伝道推進献金」
振替口座 00140-7-293436

祈りの課題

関東教区

- 佐渡教会、益子教会のために。
- 新潟地区の豪雪被害のために。

郵便振替 00670-8-7015

「佐渡伝道を推進する会」

郵便振替 00320-8-7538

「日本基督教団益子教会」

東北教区

- 「ともに生かされる教区」の主題を掲げた10年の最後の1年となる、2021年の教区の歩みのために。
- 福島第1原発から20キロ圏内に立つ浪江伝道所と小高伝道所のために。

郵便振替 02200-7-9490

「日本基督教団東北教区」

（通信欄に「浪江・小高伝道所のため」と明記のこと）



豪雪のため、雪に埋まった新潟県の高田教会

関東教区は、新潟、群馬、栃木、茨城、埼玉の5県、141の教会・伝道所からなります。当教区からは2020年1月号で紹介した2つの教会を再度覚えていただくことをお願いします。

1つは新潟県の佐渡島にある佐渡教会（牧師・三村修、荒井眞理）です。1980年代、新潟地区に「佐渡伝道を推進する会」が発足し、今もその働きに支えられています。佐渡教会は毎夏、各地の教会や教会関係団体のキャンプを多数迎えています。この教会にある老朽化した研修ハウスの補強

関東教区

東北教区（宮城県、山形県、福島県）には現在83の教会、伝道所があります。教区は7地区に分けられ、そのひとつが宮城県と福島県にまたがる相双・宮城南地区です。相双（相馬・双葉）は福島県東北部の浜通りと呼ばれる地域です。この地域に東京電力福島第一原子力発電所があり、2011年3月11日の東日本大震災によって原子炉がメルトダウン（炉心溶融）するなどの事故を起こしました。原子炉の廃炉作業が現在進められていますが、作業工程表のようには進んでいない現状です。

相双に立てられている浪江伝道所と小高伝道所は、原発から半径20キロ圏内にあるため、原発事故直後に国から帰還困難区域に指定されました。放射能に汚染された地域としてどちらの伝道所も立ち入り禁止となり、主日礼拝をはじめとした諸活動は全くできなくなりました。

小高伝道所での主日礼拝がようやく再開されたのは2019年1月になってからです。事故から約8年の後です。毎月1度、第4週の主日礼拝を午後3時から守っています。相双・宮城南地区などに属している

東北教区

教会の牧師と信徒の支えを受けて、平均15名程度で礼拝は守られてきました。しかし現在はコロナ感染予防のためもあり、近隣教会の牧師と信徒の数名で守っています。浪江伝道所については礼拝の再開めどが立っていません。

小高伝道所の信徒は実質1名。浪江伝道所に信徒はおりません。どちらの伝道所も代務者は筆者が担ってきました。2021年4月からは、代務者の交代がなされることと決まっています。みなさまの祈りの支援をお願いします。

（東北教区総会議長 保科隆）



南相馬市の小高伝道所は月に1度礼拝をささげている

を願っています。

もう1つは栃木県の益子教会（牧師・大下正人）です。焼き物で有名な益子町にある教会です。昨年4月より牧師夫妻が定住し、毎週礼拝が守られるようになりました。会堂は借地に建っており、この土地の取得を祈り求めています。2020年度、栃木地区に「益子伝道を推進する会」を発足させることができました。「ましこ便り」の発行により、地区を超え、教区全体の取り組みとなることを願っています。

この2つの教会に加えて、ぜひ以下のことを覚えてお祈りください。

年末から年始にかけての豪雪により、新潟地区の複数の教会に被害があり、教区有志が、問安と雪かきに向かいました。日本基督教団からは教区に100万円のお見舞い金をいただきましたので、被害の大きかった2教会に用いることといたしました。

また、いずれこの教区も同様かと思いますが、現在当教区の20弱の教会に専任の牧師がおらず、兼務・代務体制になっています。これもまた新たな教会のありかたと受け止めています。それぞれの教会の歩みを覚えてお祈りください。

（関東教区総会議長 福島純男）